

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	編集後記 編集委員会
作成者（著者）	東邦看護学会編集委員会
公開者	東邦看護学会
発行日	2019.03.01
ISSN	21855757
掲載情報	東邦看護学会誌. 16(2). p.51 51.
資料種別	その他
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD83444587

編集後記

2019年1月12日、哲学者である梅原猛さんが93歳でお亡くなりになった。私の専門は哲学ではないので、梅原さんの主張が正しいのか正しくないのか、本質についているのか偏った見方なのかはわからないが、その歯に衣着せぬ物言いで賛同もあれば批判も受けていた。ただ、梅原さんの書物を読むと納得するところもある。

「ソクラテス、プラトン、アリストテレスに代表されるギリシャ哲学、そして近代では、その幕開けとなったデカルトにはじまり、カント、ヘーゲル、そしてニーチェ、ハイデッガー……。これらはやはり素晴らしい哲学者たちです。彼らのように、哲学はまず、自分の思想を自分の言葉で語るなければなりません。ところが、日本の哲学者と言われる人びとは、その多くが自分の思想を語ることをしていません。自分の思想を語る、という哲学でもっとも重要なことをせず、西洋哲学を研究し、翻訳して紹介し、その研究を一生の仕事としている方々が多い。それも重要なことですが、本当の意味の哲学とは言えません。」(梅原猛(2013)『人類哲学序説』岩波書店、p.4)

これを読んだときに、学問分野は違えども、考え方は同じだと思った。ひとが生きる場のすべてに存在する看護を実践しながら感じたこと、考えたこと、疑問に思ったことなどについて、解明しようと研究を行い、その成果を公表すること、それはまさしく梅原さんの言うところの専門家が自分の思考を自分の言葉で語ることに他ならない。総説の原稿を依頼されることがある。しかし、そういうときは、そのテーマに関する文献検討を行い、いま、こんなことが言われている、と他者が行った研究結果をまとめるにすぎない。やはり自分の中に湧き上がった興味や関心の種を大事にして、明らかにしていくということは本質だと思う。それゆえ、論文を投稿してくださった方々に敬意を表します。

本誌16巻2号には、研究報告3編、実践報告1編、資料1編の計5本の論文を掲載しております。機関リポジトリへの登録開始後、多くの方々の目に触れるため、論文としての質を高める査読プロセスは非常に重要です。査読者からの指摘は、論文の精度を高めるためのコミュニケーションと受け取っていただけると嬉しいです。

最後になりましたが、6年間にわたる編集委員長の任期を終えます。これまでに多くの方々が投稿していただき、多くの査読者にお世話になり、多くの編集委員の方々にサポートしていただき、そして東邦看護学会の会員の皆様に支えられてここに至ることができました。この場を借りて深く御礼申し上げます。今度は自分の言葉を紡ぐことに集中したいと思います。長らくのご支援本当にありがとうございました。

村上 好恵

編集委員会

- 委員長 村上 好恵 (東邦大学看護学部)
 委員 岸 恵美子 (東邦大学看護学部)
 中田かおり (東邦大学看護学部)
 金坂伊須萌 (東邦大学看護学部)
 橋本 裕 (東邦大学医療センター大森病院)
 芳澤 正子 (東邦大学医療センター大森病院)
 勝部 良子 (東邦大学医療センター大橋病院)
 藤井 知花 (東邦大学医療センター大橋病院)
 小笠原有希子 (東邦大学医療センター佐倉病院)
 清田 和弘 (東邦大学医療センター佐倉病院)
-